



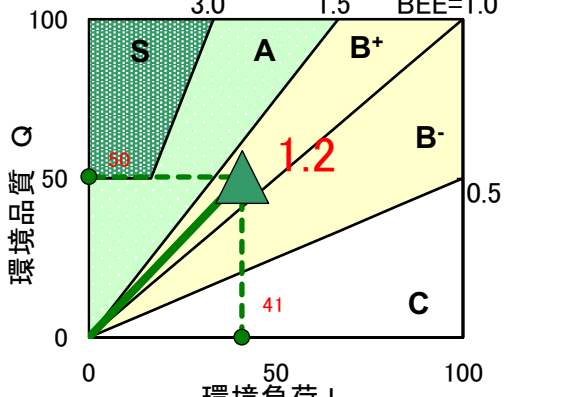
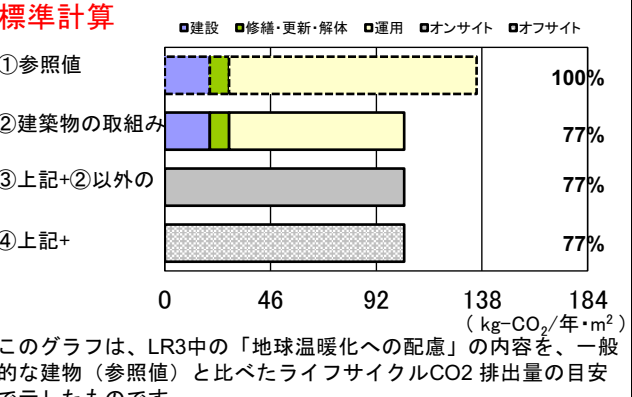
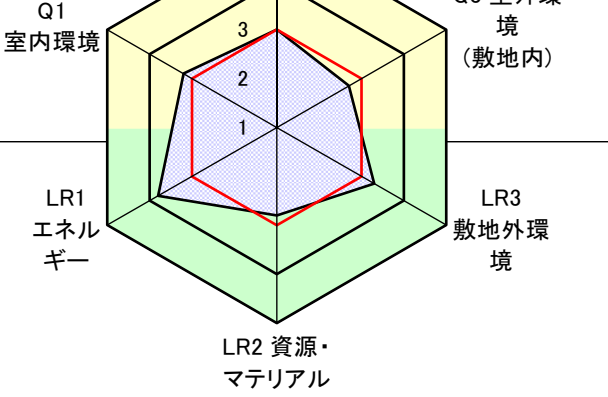
評価結果

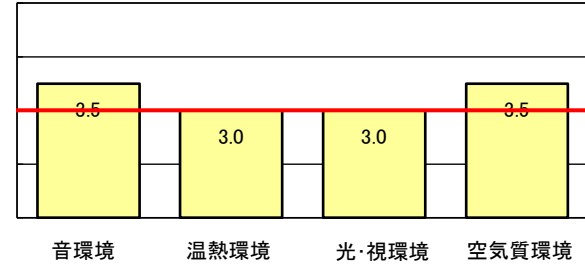
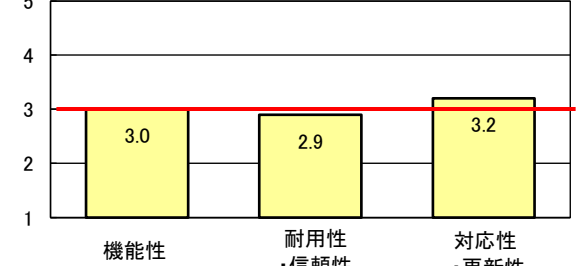
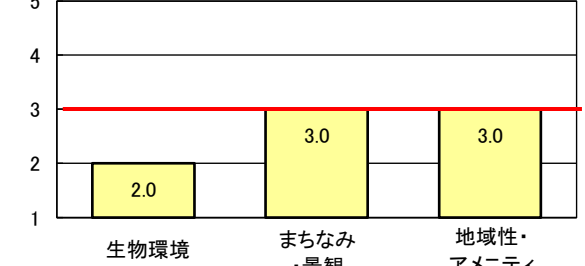
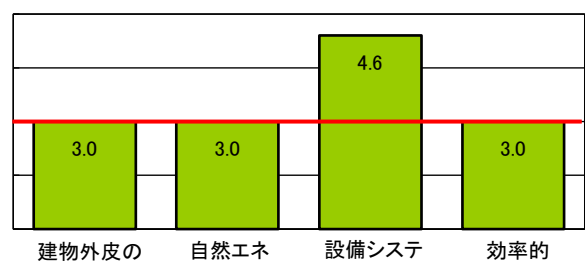
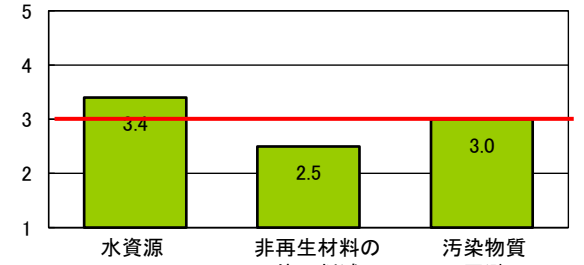
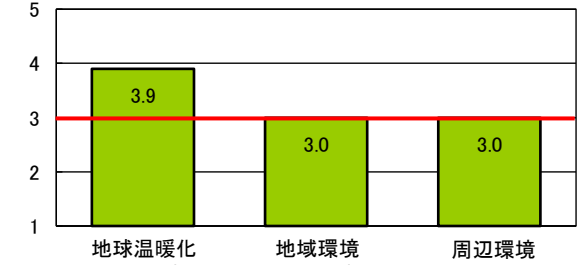
■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新案)2016年版、名古屋市長官庁建築環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サンクレーア上社駅前	階数	地上9F
建設地	名古屋市名東区上社一丁目410番、411番	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、近隣商業地域、準防火地域、宅造成工事規制区域、緑化地域、都市機能誘導区域内、居住誘導区域内	平均居住人員	110 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2020年5月20日
敷地面積	1,142 m ²	作成者	
建築面積	413 m ²	確認日	2020年5月20日
延床面積	2,545 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 		

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア= 3.0		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア= 3.2	Q2のスコア= 3.0	Q3のスコア= 2.7
		
LR 環境負荷低減性		
LR のスコア= 3.3		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.8	LR2のスコア= 2.8	LR3のスコア= 3.3
		

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
南垂れの勾配のある敷地を生かし南にメインエントランスを設け主要駅までの利便性を考えた。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
床衝撃音に対しての遮音性が優れておりスラブ厚250mm以上を確保。	階高2.9m以上とし室内高2.5mとしゆとりのある住空間としている。	周辺環境に配慮し住戸分の駐車場を確保。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた	節水型便座や水栓を採用	周辺住民に配慮し隣地境には緑地を設けた。

- CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)サンクレーア上社駅前

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.066666667	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.025	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。